

公式記録

平成20年度兵庫県高等学校サッカー新人大会

準決勝 【38】

主審
署名

三村 泰斗

日時 2009年2月11日(水) 13:00 キックオフ 会場 ア斯巴五色サブグラウンド

天候 晴れ 風 弱風 ピッチ 芝・クレー 状態 良好・不良・泥沼 試合形式 70分/延長 分 PK戦 有

マフィアツォナ 会場主任 辺見 康裕 記録 岡本 進司 / 赤松 正人 観衆 100人

主審 三村 泰斗 副審1 八巻 良輔 副審2 鮫島 敏宣 第4の審判員 藤井 健介

チーム名	kick off	0	前半	0	チーム名	kick off
関西学院高等部	先	0	0	後半	2	科学技術高校
			延前			
			延後			
			PK戦			
背番号						
○×						

交代	シュート				得点	選手名 (学年)	番号	位置	位置	番号	選手名 (学年)	得点	シュート				交代		
	No.	OUT時間	延後	延前									後半	前半	前半	後半		延前	延後
						富永 裕士	2年	1	GK	GK	1	古澤 智也	2年						分
						酒井 達弘	1年	2	DF	DF	2	荒木 和哉	2年						分
						曾根 啓之	2年	3	DF	DF	3	半田 拓也	2年						分
						堂本 周都	2年	4	DF	DF	4	織田 秀利	2年						分
						泥 宗太郎	2年	5	DF	DF	15	神藤 智宏	2年						HT分
					1	加納 慶太	2年	6	MF	MF	5	高田 祥生	2年		1				分
				1		前川 拓矢	1年	8	MF	MF	7	洞ヶ瀬 太一	2年						65分
				1		森岡 大貴	2年	9	MF	MF	14	呉島 堂真	2年	2	3	2			分
						中田 翔真	2年	10	MF	MF	17	若松 宏紀	2年						HT分
60分				1	1	荻原 佑真	2年	11	FW	FW	10	伊佐 耕平	2年		2	4			分
45分				1		青木 遥平	2年	16	FW	FW	11	鷲尾 康介	2年		1	1			51分
						福島 僚太	1年	20	GK	GK	12	内藤 明德	2年						分
						長安 瑛希	1年	12	DF	MF	6	富安 奎真	2年						分 17
						牟田 恭平	2年	14	DF	MF	8	奥村 謙介	2年						分 7
16分						中野 仁	1年	19	DF	MF	9	大佐和 悠	2年						分
						前窪 鉄平	2年	23	MF	FW	13	邨上 和幸	1年			1			分 11
						有馬 千貴	2年	24	MF	FW	18	稲垣 雄太	2年						分
11分						升迫 陽輔	1年	7	FW	FW	19	藤本 英泰	2年						分
						酒井 大地	2年	17	FW	DF	22	細川 翔太	2年						分 15
						井上 貴太	1年	25	FW	FW	25	深澤 卓也	1年						分

時間	警・退	No.	氏名	事由	福嶋 眞二				監督				鈴木 利章				時間	警・退	No.	氏名	事由
27分	警告	3	曾根 啓之	ラフ	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	66分	警告	2	荒木 和哉	反スポ	
45分	警告	6	加納 慶太	反スポ	6			3	3	シュート	7	8			15						
					6			4	2	GK	6	2			8						
					4			0	4	CK	1	2			3						
					12			6	6	直接FK	3	7			10						
					0			0	0	間接FK	0	0			0						
					0			0	0	(おかけ)	0	0			0						
					0			0	0	PK	0	0			0						

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過] 略号例: ドリブル~・コロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS										
	47分	科学技術	14	呉島	0-1	左 CK ⑥ ○ 中央 ⑭ HS										
57分	科学技術	14	呉島	0-2	中央 ⑤ ~ ○ 左 ⑭ ~ S											
分					-											
分					-											
分					-											
分					-											
分					-											
分					-											
分					-											

戦評者 所属【 篠山鳳鳴高等学校 】 氏名【 蘆田典幸 】

前半立ち上がりは関学の力強さが科技を上回っていたが、15分頃より科技がペースを掴み、左サイドのスペースを使うようになった。また、科技⑩伊佐の個人技によって決定的な得点の機会を多く生み出した。

後半は双方ともスローペースな立ち上がりであった。運動量の落ちた関学のサイドスペースを科技が支配し、細かいパスをつなぐようになり、徐々にリズムを掴んだ。そして、47分コーナーキックから科技が先制した。関学は粘り強い守備をしたが、科技が高い技術とパスワークで関学を上回り追加点を奪った。

両校とも準決勝の内容にふさわしいゲーム内容であった。